熊本地震報告

日本集団災害医学会

DMATの活動

- 動員
  - 全国 466 班、2071名
  - 4月14～23日
- 本部活動
  - 県調整本部、3つの活動拠点本部
- EMIS
  - 病院、避難所の情報共有
- 病院支援
- 病院避難
- ドクヘリによる後方搬送
- 避難所スクリーニング、診療
- 救助現場活動
- ロジスティックサポート
  - 病院の不足物質支援
  - 空路投入DMATのレンタカー確保

病院避難施設

全患者を避難した医療機関

保健医療圏	施設名	科別	実施日時	ライフライン・サプライ状況				避難患者数（暫定値）	避難理由
				建物倒壊・倒壊の恐れ	電気使用不可	水使用不可	医療ガス使用不可		
上益城	希望ケ丘病院	精神	4月15日			◆		177名	院内複数個所で水漏れ、漏電の恐れあり
上益城	益城病院	精神	4月15日		◆	◆		200名	ライフライン途絶
上益城	東熊本病院	総合	4月15日	◆	◆	◆	◆	54名	建物倒壊の恐れあり
熊本	熊本市立熊本市民病院	総合	4月16日	◆		◆	◆	323名	建物倒壊の恐れあり、水漏れ
菊池	熊本セントラル病院	総合	4月16日			◆		189名	スプリンクラー、水道管破裂により院内複数個所水漏れ漏電の可能性あり
阿蘇	阿蘇立野病院	総合	4月16日	◆		◆		65名	倒壊の恐れあり　裏山が崩落しそうで二次災害に危険性あり
熊本	あおば病院	精神	4月16日	◆		◆	◆	111名	壁の倒壊が激しい。建物全体傾きあり。2階,3階は危険な状態。スプリンクラーが破損。駐車場は一部液状化している
熊本	くまもと森都総合病院	精神	4月17日	◆		◆		96名	高架水槽の配管が痛み病棟内に水漏れが発生。壁に数か所クラックが生じている
熊本	小柳病院	精神	4月17日	◆		◆		47名	建物倒壊の恐れあり、水漏れ
上益城	荒瀬病院	療養	4月18日	◆		◆		39名	建物倒壊の恐れあり、水道使用不可

計　　1301　名　（暫定）

一部患者を避難した医療機関

阿蘇	阿蘇[illegible]								がほど沈下。 の患者は避難

計　　77　名

全避難10施設　　合計　1378 名の避難を実施

医療救護調整本部の主な活動

- 救護班調整活動
  - 総チーム数、人数：1428チーム、6420名（DPAT除く）
  - 延べチーム数：3563チーム日
  - 4月15日から6月2日
- J－SPEEDによる診療患者の集計
- 避難所情報の集約
- 行政連携・保健師支援
- 益城町支援（避難所対策等）
- DVT対策
- 感染症対策
- 熱中症対策
- 医療施設インフラ支援

熊本県庁DMAT調整本部

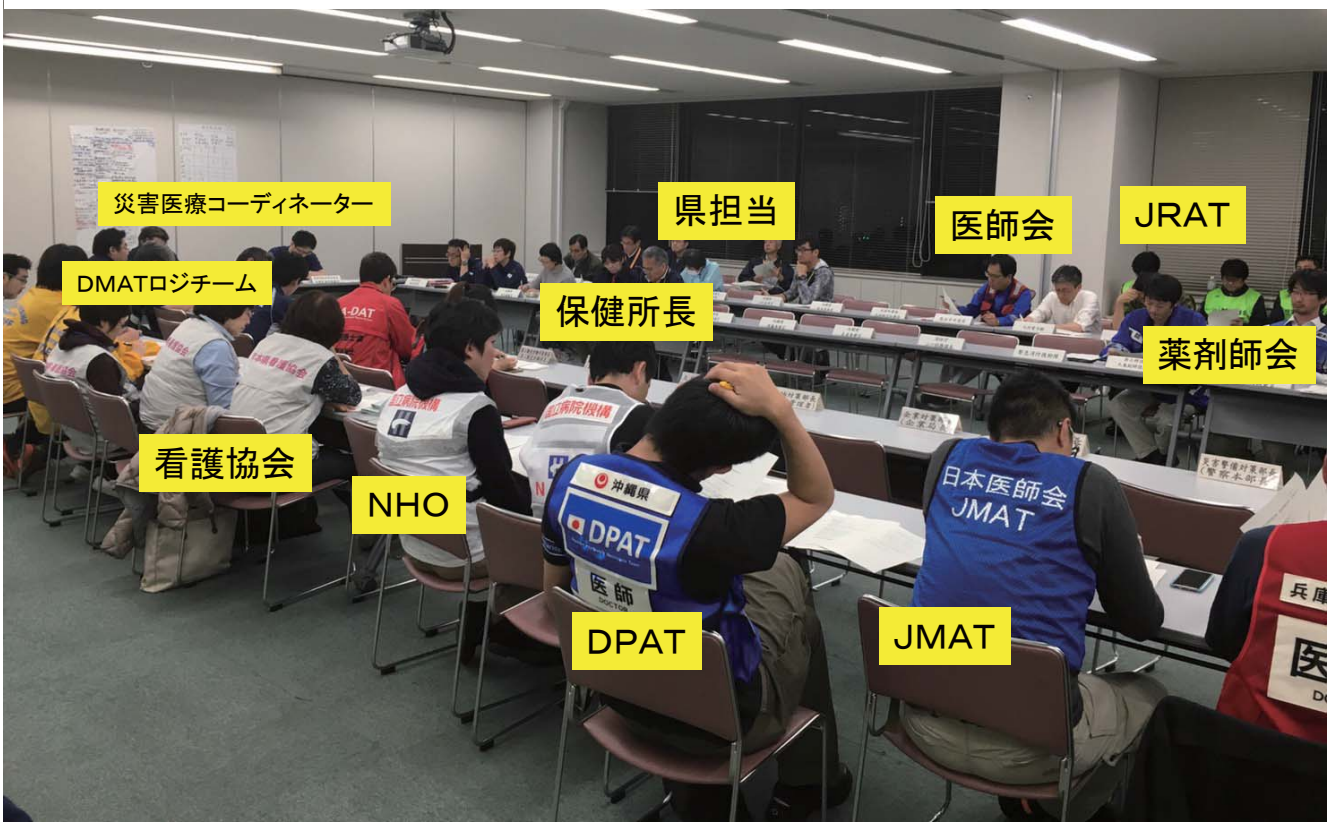
DMAT活動拠点本部

熊本赤十字病院

阿蘇医療センター

熊本県庁新館8階　熊本県医療救護調整本部

コーディネーター連絡会議の実施



DMATロジスティックチーム

【任務】

DMAT都道府県調整本部等の本部業務において、統括DMAT登録者をサポートする

【派遣対象者】

全都道府県におけるDMATロジスティックチーム隊員養成研修修了者

【活動場所】

熊本県DMAT調整本部（熊本県医療救護調整本部）、菊池保健医療救護活動拠点本部、阿蘇地区災害保健医療復興連絡会議（ADRO）事務局、熊本市役所、御船保健所

- 第1次隊（入間基地参集⇒熊本空港（自衛隊機））
  - 派遣日：平成28年4月16日（土）
  - 派遣メンバー：医師7名、調整員8名
- 第2次隊（福岡空港参集（民間機等））
  - 派遣日：平成28年4月17日（日）
  - 派遣メンバー：医師3名、看護師3名、調整員6名
- 第3次隊（熊本県庁参集）
  - 派遣日：平成28年4月19日（火）
  - 派遣メンバー：医師3名、看護師2名、調整員2名
- 第4次隊（熊本県庁参集）
  - 派遣日：平成28年4月21日（木）
  - 派遣メンバー：医師4名、調整員6名
- 追加派遣隊
  - 派遣日：平成28年4月21日（木）
  - 派遣メンバー：医師6名、看護師7名、業務調整員14名

84名を派遣

日本集団災害医学会（JADM）
災害医療コーディネートサポートチーム

熊本県からの要請に基づき、熊本県内で活動する災害医療コーディネーター及び被災地域の保健所等を支援要員を派遣

107名を派遣

第１次隊：４月２７日（水）～５月３日（火）
医師6名、看護師5名、ロジ7名：計18名

第２次隊：５月３日（火）～５月９日（月）
医師5、看護師5、ロジ3：計13名

第３次隊：５月９日（月）～５月１５日（日）
医師5名、看護師3名、ロジ1名：計9名

第４次隊：５月１５日（日）～５月２１日（土）
医師4名、看護師3名、ロジ4名：計11名

第５次隊：５月２１日（土）～５月２７日（金）
医師9名、看護師2名、調整員6名

追加派遣隊：医師21名、看護師4名、調整員14名：計39名

今回の災害の特徴

- 多数の外傷患者対応はしていない
- 死者、負傷者に比して、倒壊家屋が多かった
  - 医療ニーズ＜保健・福祉ニーズ
- 連続する地震で時間をおいての病院避難が続く
- 都市部、ニュータウンでは車中泊が多数発生する

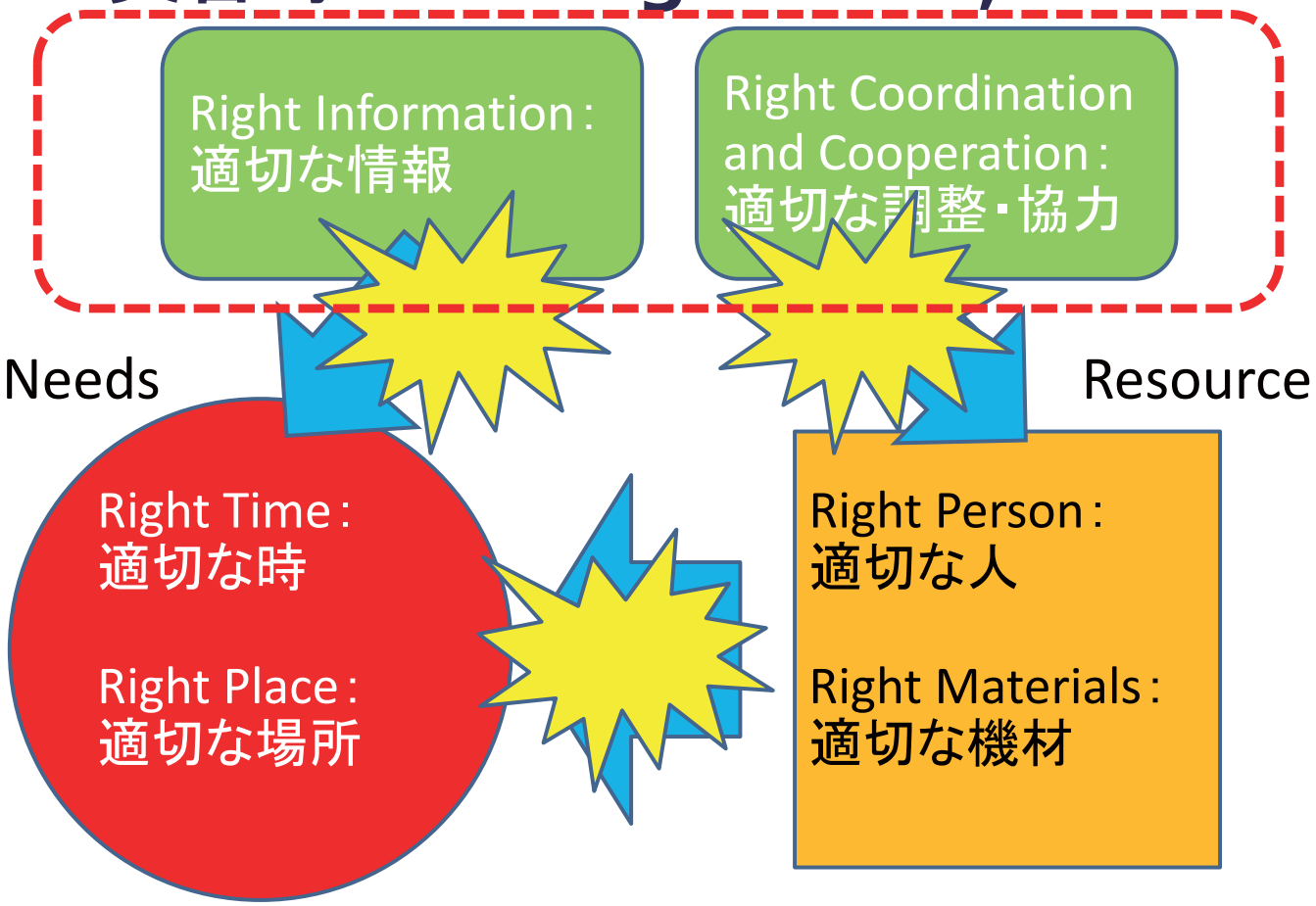
今回の医療活動

- 全国から約2000名のDMATが参集し、EMISによる情報収集に基づき、1500名を超える病院避難搬送を行った。
- DMATロジスティックスチーム、日本集団災害医学会コーディネートサポートチームが派遣され、急性期から指揮系統を立ち上げ、亜急性期まで継ぎ目なく連続させることができた。
- 亜急性期において、様々な保健医療福祉にかかわる支援チームの調整体制が県、二次医療圏、市町村のレベルで確立できた。
- 膨大な保健・福祉ニーズに医療救護班も対応した。
- J－SPEEDの基づき、患者情報が収集された。
- 保健医療救護の視点より、避難所の生活環境の改善が図られた。

東日本大震災対応（DMAT）：今後の課題

- 指揮調整機能の更なる強化
  - DMAT事務局の機構拡充
- 病院被害情報スクリーニング（EMIS）
  - 一般病院まで含めたスクリーニングの推進
- 被災地内でインターネットを含む通信体制の確保
  - 全DMATへの衛星携帯の整備
- 広域医療搬送戦略の見直し
  - SCUをサポートする近隣病院の指定
  - SCU、DMATへの高度医療資器材の整備
- 亜急性期活動戦略の確立
  - 迅速性を維持しつつ、1～2週間をカバーできる体制の確保
  - 病院支援戦略の確立
- DMAT全体としてのロジスティックサポートの充実
  - ロジステーション構想の具現化
  - 中央直轄ロジ要員の確保

災害時のManagement ;6R's



今後の課題

- 災害医療専門家（災害本部機能の担い手）の確保、養成
- 耐震診断との連携
  - 急性期の病院、亜急性期のDVT対策
- 早期からの車内泊対策
  - 避難所外の生活者への対応
- 避難所スクリーニングシートの標準化、電子化と結果の活用